

第7号様式（第4条関係）

まちづくりアドバイザー登録票

ふりがな	さとう けんいち
氏名	佐藤 賢一
所属（勤務先）	まちなみ景観課へお問い合わせください。
連絡先	
専門分野	法定都市計画、歴史的景観の形成、住民参加型（パタン・ランゲージを活用した）まちづくり、環境デザイン（都市デザイン）、復興・防災まちづくり、TMO組織等の立ち上げ、観光商品の造成
支援可能事項	<ul style="list-style-type: none"> ■ まちづくりの進め方(ワークショップなど)について ■ まちづくりの事業手法や制度について ■ まちづくりの計画・ルールづくりについて □ 建築制限、開発制限について □ 不動産鑑定、税務、法律について ■ 防災まちづくりについて ■ その他(中心市街地活性化のための市街地再開発事業の動機づけ、合意形成)
支援可能事項における実績等	<p>■ ワークショップ：C・アレグザンダーのパタン・ランゲージを活用した住民参加型まちづくりを実践し、平成4年7月土浦市景観形成基本計画「水の都」、平成5年7月「旧城下町とその周辺」の策定を通し、商家の再生プランによる「まちかど蔵・大徳」の整備に関わるとともに土浦幼稚園の街並み修景設計（原寸大の段ボール模型によるプランニング・ウィークエンド）を行った。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 30%;"> <p>水の都</p> <p>土浦の実践的まちづくりと景観形成</p> <p>土浦のまちづくりは一掃途切れたか見えましたが、時系列的に整理してみると、行政が先ず動き、後から個人的に建物を修復してきています。店主一人一人が地道な努力を重ねています。市担当者の服部さんはこれを「土浦らしいですね」と一言。</p> </div> <div style="width: 65%;"> </div> </div> <p style="font-size: small; margin-top: 10px;">佐藤賢一（㈱都市環境計画研究所） 後藤春彦（早稲田大学・助教授） 三七 諭（早稲田大学・大学院生）</p>

- **まちづくり事業手法・制度**：平成 10 年～平成 14 年中神田五町の神田（千代田区）型地区計画制度（街並み誘導型地区計画＋用途容積型地区計画）による都心居住の促進と SOHO 集積・コマンド N 誘致。この繋がりでも秋葉原タウンマネジメント組織の立ち上げを行う。
- **まちづくり計画・ルールづくり**：葛飾区区民参加による街づくり推進条例、中神田五町のまちづくり協定締結、全国ビルメンテナンス協会の平成 30 年度第 3 回災害協定策定ワーキンググループの一員として災害協定策定マニュアルの検討
- **防災まちづくり**：東日本大震災の故郷大船渡の永浜地区にて、高台移転をコーディネートする他、平成 30 年度現在、被災跡地利用として「永浜ふるさと広場」（仮称）の合意形成及び整備を目指している。



当初のコンセプト模型



現時点の状況

（湾を望む菜園付き戸建て住宅地）

- **その他、市街地再開発事業など**：国の制度が出来て間もなく南部繁樹氏の誘いで大船渡市盛町の市街地総合再生基本計画に関わる。それから大分経ち、平成 26 年 6 月～平成 27 年 2 月、滋賀県・M銀座商店街の市街地再開発事業に向け、準備組合設立を行う。その後平成 27 年 7 月～平成 28 年 3 月八王子市中心市街地まちづくり方針市街地総合再生基本計画に参画し、これを契機に平成 29 年 1 月八王子駅前北口まちづくりの動機づけのための飯田市の身の丈再開発視察・3 月、積み木を利用した再開発模型によるワークショップ開催、そして平成 30 年度、高松丸亀町商店街振興組合理事長の古川 康造氏を招いた勉強会開催による「八王子駅北口まちづくり連絡会」設立支援などを 3 年間にわたり行った。

近年の論文その
他の実績等

【論文・委員会】

- 平成 23 年 10 月～ 永浜地域大震災復興委員会専門部会委員一大立・永浜地域高台移転<永浜地域大震災復興委員会（「永浜契約会」）>
- 平成 23 年 8 月 復興まちづくり会社勉強会<岩手県釜石市>
- 平成 24 年 2 月 地域づくり支援事業（専門家派遣事業）・・大船渡・永浜地域高台移転、盛町田茂山地区‘パティオ型商店街’整備<内閣官房地域活性化統合事務局>
- 平成 25 年 7 月 同時進行の生業文化都市論・パタンランゲージ-都市・地域を眺める 5 つの視座×編修的統合- 第三セッション「重層的都市論」<早稲田大学まちづくりシンポジウム 2013>
- 平成 26 年 7 月 中山間地の暮らし・生業の心（しん） -道の駅・くらぶち小栗の里- <「地域開発」 （一財）日本地域開発センター>
- 平成 27 年 東日本大震災復興まちづくりの課題と展望 岩手県沿岸部に於けるエリアマネジメント（AM）組織のあり方<日本環境管理学会大会 2015-第 28 回研究発表会-大会特別セッション>
- 平成 29 年 災害復興は、清掃・感染症予防から始まった<月刊ビルメンテナンス（2017.8）>

【賞】

平成 19 年

- 浦安東地区 2 号近隣公園ワークショップ・実施設計及びイベント企画・運営<2007 年ランドスケープコンサルタンツ協会賞優秀賞>
- 港区立芝公園<第 23 回都市公園コンクール 国土交通省都市・地域整備局長賞>
- 港区政 60 周年記念碑とその周辺緑化（青山表参道町会・青山表参道商店会）<第 18 回緑の環境デザイン賞 国土交通大臣賞>

その他PR事項

私のまちづくりのモットーと八王子の理想について

1. 市民の声に耳を傾け、その側に立ってものを考え、参加のまちづくりを推進したい。
2. 合意形成の手法として、先にも示したようにパタン・ランゲージにより、多様な意見を編み込み かたちにしたい。
3. 風土・地域の特性を重んじ、それに相応しい、また、馴染んだ計画立案を心がけたい。
4. (田村 明先生も言っていたが、) 市民が望むまちづくりのためなら国の制度すら変える勢いで行いたい。
5. 国内外の研究者や多摩美術大学等との連携により、先端のまちづくりを志向したい。(カザフスタンの新首都アスタナでの混用地域導入や米国の DETROIT FUTURE CITY に未来を見る)
6. 最近、盛岡の脳神経外科医のパンフレットで気付いたのだが、85歳の名医を中心に、人工骨を製造する企業などがその医師を支える【小さな医療クラスター】を形成していた。超高齢化社会の今日、どの都市でも言えると思えた。
7. 温故知新。そして、世界に目を向けることで水谷 穎介氏の<ユニバーシティ・コミュニティ>やシドニー大学都市計画学部長のピーター・ドローグ氏のコンペ案<「キャンパス都市・川崎」構想>が、今でも八王子の雛形になると考える。